● 地域連携 ●

「地域を創る」～持続可能な東部学区のために私たちができること～

山形県　**酒田市立東部中学校**（校長 赤塚枝美）

①「地域を知る活動」として、地域の自然・農作物・歴史・文化などを広く学ぶ。
②「地域で働く活動」として、地域で職場体験等を行い、働くことや自分の適性などを知る活動を行う。
③「地域を考える活動」として、これまでの学びをもとにして地域活性化プロジェクトを行う。
④地域住民と今後の「東部中学区の地域と子どもの未来を考える会」を開く。
⑤地域と中学生が協働してできる活動を仕組む。

【学校プロフィール】

本校は、北に鳥海山を望み、周囲は庄内平野に囲まれた、のどかな田園地帯に位置しています。酒田市の郊外、旧松山町にあった松山中学校と、旧平田町にあった飛鳥中学校が統合し、平成 26 年に「酒田市立東部中学校」として開校しました。本年度で８年目のまだ若い学校です。

☆鳥海山を背景に建つ東部中学校

学校教育目標は「自律・貢献・志」。自分で正しく考え、判断し、行動できる生徒を育てるために、全校生徒 215 名と教職員 35 名、力を合わせて日々の教育活動に取り組んでいます。

学区内には３つの小学校があり、令和４年度から本格的にスタートする小中一貫教育の推進に向け、小中９年間を見通した教育を大切にしています。

【はじめに】

少子高齢化･人口減少が進み、地域コミュニティの弱体化が懸念されるようになって久しくなりました。本地区も同様で、子供の数は年々減少し、高齢化世帯が目立つ状況です。これまであった地域行事が担い手不足によって開催できなくなったり、町の

中で子供や若者の姿を見る機会が少なくなって町に活気がなくなったりしているという声があちこちから聞かれます。

学校としても、生徒数の減少は大きな課題になっています。また、社会が学校に求める内容は年々複雑になってきており、ひとつの学校だけで子どもを健全に育てていくには限界が出てきました。

そうした中、酒田市としては令和４年度から「小中一貫教育」を市全体で進めることになり、令和２年度より準備を進めてきました。さらに、令和５年度からは酒田市方式のコミュニティ・スクールを採用し、地域とともに子どもを育てていこうという動きが出てきています。

そうした状況を踏まえ、学校も地域もみんなが元気で笑顔でいられる持続可能な東部地区にしていくために、学校としてできることは何かを考えたいと思い、総合的な学習の時間を核として研究に取り組んでいくことにしました。

【研究主題】

テーマを「地域を創る」と設定し、単に地域のことを体験し、知って終わりということではなく、本校の教育目標にある「自律・貢献・志」の観点から、自分から主体的に地域と関わり、自らの手で地域を創り出せるような取り組みにしたいと考えました。

従来の総合的な学習の時間でも、地域と関わって行う活動は入っていましたが、単発の活動であったり、活動の意味もよくわからないまま、地域から要望されてずっとやってきたから・・・という理由で行っていたりというものが多くありました。

また、中学校３年間の総合的な学習の時間の活動内容に系統性がなく、一貫した学びが行われていないという現状もありました。

そうした点を改善し、持続可能な東部地区を創っていくためのテーマとして「地域を創る」という大テーマを設けることにしました。

【研究方針】

・大テーマ「地域を創る」の下に、各学年テーマを設定し、系統性のある学習を進める。
　○１年時「地域を知る活動」
　　地域の自然、農作物、歴史、文化などを幅広く学ぶ。
　○２年時「地域で働く活動」
　　地域で職場体験等を行い、働くことや自分の適性などを知る活動を行う。
　○３年時「地域を考える活動」
　　これまでの学びをもとにして、地域活性化プロジェクトを行う。
・研究体制として、総合的な学習の時間を推進するプロジェクトチーム（各学年から１～２名を選出）を立ち上げ、中心になって取り組みを進める。
・地域と連携、協働できる体制を創り出すための協議会を開催し、ビジョンの共有を行った上で、何らかの活動につなげる。

【研究の実践】

１．第１学年の実践「地域を知る活動」

６月　農業講話①

平田地域で長い間農業に携わり、農業マイスターの資格をもつ冨樫文雄氏より農業についての話をお聞きしました。予定では、その後実際に農業体験を実施していく予定でしたが、コロナ禍であったため、今年度の作付けは断念せざるを得ませんでした。

９月　里山体験、竹林整備事業

☆指導を受けながら竹を伐採

本地区の周囲には、里山が広く広がっています。そのため、「ひらた里山の会」というNPO法人があり、里山を守る活動を継続して行っています。

本校の生徒が、この里山や竹林の整備事業に関わるようになって、数年経ちました。里山が地域にもたらす影響や、環境保全のもつ意味などの話をお聞きしながら、実際に里山に出向き、「里山の会」のみなさんのご指導を頂きながら、伐採作業に取り組みます。

初めは、活動の目的がよくわからないでいた生徒たちも、「里山の会」さんの話を聞いたり、その思いに触れたりしながら、実際に一緒に作業に取り組む中で、この地域の環境が里山によって守られていることやこの里山を守っていく大切さに気づき始めました。

暑い中、虫に刺されながらも一生懸命活動する生徒の姿が印象的でした。

☆竹林に入っての整備授業

11月　松山能体験

☆能衣装の着付けを体験中

松山地区は、昔お城があった地区で、旧松山中は、城壁に囲まれた学校でした。そんな伝統のある松山地域には、能が伝承されています。

現在は、「松諷社」という団体が、その伝統芸能を後世に伝える役目を担ってくれています。

この伝統ある能の歴史や概要を学び、舞台衣装を着せてもらったり道具に触れたりしながら、地区に伝わる芸能を大切にしていこうという思いを深めていました。

☆松諷社の方からお話しを聞く

☆松諷社の方による演舞

１月　農業講話②

☆農学部の先生のお話し

本地区の在来作物である「平田赤ネギ」は、当地区でしか栽培されていない貴重な農作物です。それ以外にも、「庄内柿」などそれぞれの地方で栽培されている貴重な在来作物が各所に点在しています。しかし、その栽培は非常に難しいことでも有名で、年々担い手が減っている現状があります。

学区の各小学校では、地元の皆さんから協力を頂きながら、学校の農地で野菜や米などを育て、収穫する体験をしてきます。

そうした繋がりを生かし、中学校では山形大学農学部の江頭教授を迎え、農業講話を行いました。江頭教授は、在来作物を専門に研究している先生で、地区住民の農業マイスターとともに、在来作物の種類やその重要性を講演して頂きました。

自分たちが何気なく口にしていた野菜や果物などが貴重な在来作物であったことを知り、それを伝承していくことの大切さを感じているようでした。

☆平田赤ネギ

２．第２学年の実践「地域で働く活動」

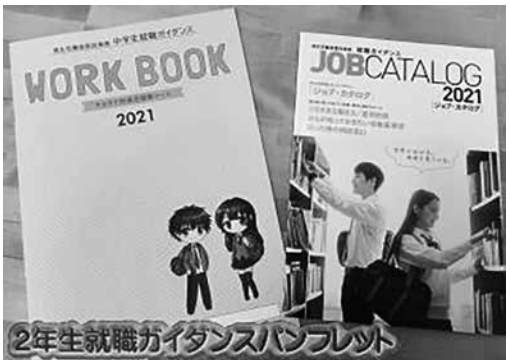
６月　就職ガイダンス

☆キャリア教育講演会

職業や働くことの意義、職業生活やその後のキャリア等について理解し、中学卒業時の進路といった短期的なものだけではなく、10 年後・20 年後という長期的な視野に立って将来のキャリア形成を自ら考えるきっかけとするために、厚生労働省主催の就職ガイダンスを行いました。

働くことの意義、いろいろな働き方、仕事を選ぶとき、今できることといった観点から、中学生向けにわかりやすくお話をして頂きました。

働くということについて、将来の自分の姿を考える機会になったという感想が聞かれました。



☆厚生労働省作成の中学生職業ガイダンス
「WORK BOOK」と「JOB CATALOG2021」

９月　職場体験

☆「アイアイひらた」での体験

地区内の各事業所さんに協力を頂きながら、２日間にわたって職場体験を行いました。２年生 73 名が 40 か所ほどに別れて様々な職場を体験させて頂きました。

ちょうど新型コロナウイルスの感染が拡大してきた頃だったので、急遽キャンセルになってしまった事業所もありましたが、自分が体験したいと希望した体験先で、実際の仕事を体験させて頂きました。

体験させて頂いた事業所の業種は、農業、建設業、食品製造業、小売業、宿泊業、飲食サービス業、教育、福祉、サービス業と多岐にわたりました。

体験を終えたある生徒は、「自分にはこの仕事が向いているような気がした。将来この仕事に就けるよう頑張っていきたい。」

☆「松山観光バス」での体験

☆「志田建設」での体験

と感想を書いていました。元々興味を持っていた職業だったようですが、実際に体験したことで、自分の適性との整合性を感じることができたようです。中には、「親の大変さがわかって、親に感謝したい」という感想を持った生徒もいたようで、自己肯定感の向上にも役立ったようです。

☆「松山小学校」での体験

12 月　地元で働く意味

☆動画をまじえた講演

本地区には､若者たちで組織している｢ふれあい商工会｣があります。若い人が地元に残らないという人口流出の課題をなんとかしたいと考え、地元の中学生・高校生に地元で働く意味や面白さなどを伝える活動をしています。

初めに、地元で頑張っている人にインタビューした動画を見た後、実際に地元で起業している２人の方からお話をお聞きしました。２人の内の１人は、本校の前身である飛鳥中の出身だったので、自分たちの身近な先輩ということになります。

自分たちの先輩が地元で生き生きと働いている様子を知り、「地元に残るのもいいなあ」､「都会では味わえない地元ならではの良さがあるんだなあ」と感じた生徒が多かったようです。

３．第３学年の実践｢地域を考える活動｣

６月　出前講座

☆市役所職員から話を聞く生徒

酒田市が抱えている課題を知るために、市役所の職員等、現場でその課題解決にあたっている方々においで頂き、コース別に分かれて講話をお聞きしました。

ジオパークや景観などの環境に関わる課題、地域の宝や文化財を活かした観光のあり方などについて学びました。

2030 年には、酒田市の人口が今の市全体の人口の６割程度しかいなくなり、「消滅可能性都市」となることを知った生徒たちは、自分たちが酒田を活性化するために何ができるのか考えたいと思うようになったようです。

☆頂いた資料

本来は、この講座を受けて、自分たちで酒田や東部地区を活性化するために自分たちができることを考えていくプロジェクトを実施する予定でいましたが、新型コロナの影響で、プロジェクトを実施することはできませんでした。

４．全学年での実践

４月

・「総合プロジェクト会議」の実施

各学年１～２名の総合的な学習の時間担当者で、今年度の総合をどのような形で進めるか協議。

↓　第１学年の総合年間計画

酒田市立東部中学校　１学年「総合的な学習の時間」年間計画

総合的な学習の時間担当（橋坂）

学期	内容	区分	備考
1	○キャリアパスポート ・これからスタートする中学校生活をどう過ごすか考える。	職業 進路	
1	○EduTownあしたね ・サイト内にあるワークシートを活用し、記入しながら職業観を養う。（自己探究編、職業観・勤労観編、進路編の３つあり）	職業 進路	キャリア教育・職業調べサイト
2	○豊山体験 ・豊山整備体験を通して、豊山の重要性を知り、景観をやることの必要性を学ぶ。 ・東部中の落ち葉を活用した腐葉土を作成し、持続可能な社会づくりについて学ぶ。	地域	NPO 法人 ひらた豊山の会 佐藤　忠智さん
2	○農業体験 ・東部地区に存在する在来作物を学習しながら、地域にある魅力を再認識する。 ・東部中特製の腐葉土を活用して実際に作物を育て、持続可能な社会づくりを体験する。 ↓山形大学農学部江頭先生の授業。 ↑喜程さんの講話。	地域	喜程文雄さん （農業指導員） 山形大学農学部 江頭准教授
3	○松山能体験 ・東部地区の伝統芸能に触れ、芸能の魅力や継承する大切さを学ぶ。 ↑一昨年度の、舞付け体験のようす。	地域	松山伝承館
	○職業調べ ・「EduTownあしたね」を活用し、興味をもった職業が、どのようにすればなれるのか、どんな風に働いているのかを調べる。	職業 進路	
	○キャリアパスポート　・最後の記入		

・「総合的な学習の時間」オリエンテーション（学年ごと）

・『キャリア・パスポート』に今年のめあてを記入（学年ごと）。

↓　３年間を見通した総合の計画

11 月　落ち葉集め

学校周辺にはたくさんの木があり、秋になると落ち葉で道路が埋もれてしまうほどです。その落ち葉は、これまで校務員さんが拾い集め、ゴミとして処分していました。

ところが、NPO 法人「ひらた里山の会」さんがこの落ち葉を集めて、腐葉土に変え、肥料として再利用する取り組みを始めたのです。そこで、本校の生徒もその取り組みに参加し、学校周辺の落ち葉を集める活動を行いました。

☆落ち葉を拾い集める生徒たち

当日は、本校生だけでなく、近隣の平田保育園、南平田小学校、平田総合支所などでも同様の活動を行い、地域全体で落ち葉集めに取り組みました。

今後は、集めた落ち葉で作った腐葉土（肥料）を使い、本校の畑で野菜等を栽培する予定です。その野菜を学区内の各施設で販

売することを計画中です。

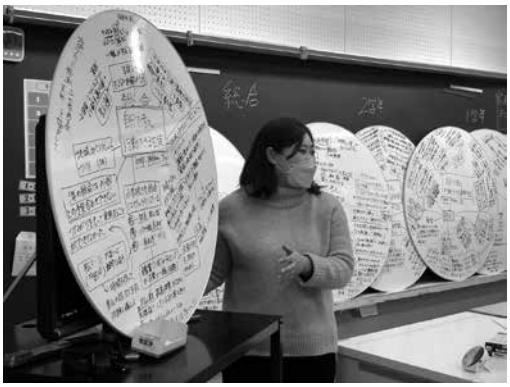
２月　「総合プロジェクト会議」の実施

各学年に１～２名ずついる総合的な学習の時間担当者が集まり、今年度の活動を振り返った上で、来年度に向けての取り組みを協議しました。

協議には「えんたくん」を活用し Keep（今年できていること、継続したいこと）、Problem（課題となっていること、改善したいこと）、Try（改善したいこと、挑戦したいこと）という３点で話し合いを行った。

それを職員全体にも提示し、意見をもらったうえで、再度プロジェクト会議を行い、来年度につなげることにした。

☆「えんたくん」での協議



☆全体への提案中

５．地域との連携

「東部中学区の地域と子どもの未来を考える会」

12 月２日（木）

《参加者》

学校評議員６名、PTA 副会長

平田総合支所長、松山総合支所長

「ひらた悠々の杜」協議会担当者

校長、教頭

☆ワークショップに取り組む参加者

《講師》

庄内教育事務所社会教育課

社会教育主事　那須陽生氏

令和3年10月19日

平田・松山総合支所長 様
東部中学校学校評議員の皆様
東部中学校PTA三役の皆様
ひらた悠々の杜　民井紀之様

酒田市立東部中学校
校長　赤塚 祐美

「東部中学区の地域と子どもの未来を考える会」を開催します

「学校を核としたまちづくり」、「地域とともにある学校づくり」・・・そんな言葉を聞いたことはないでしょうか。

社会では、少子高齢化・人口減少・過疎化・地域コミュニティの弱体化などの問題が取り上げられて久しくなりました。学校でも、生徒数の減少・家庭の教育力問題など様々な課題があります。さらに今後、世の中はSociety5.0時代を迎え、予測困難な激動の時代を迎えると言われています。

そんな中だからこそ、地域と子どもたちが笑顔でいられるようにするために、地域と子どもたちに明るい未来を築けるために、我々にできることを学区の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

その第一歩として、庄内教育事務所社会教育課の社会教育主事をお迎えし「東部中学区の地域と子どもの未来を考える会」を実施いたします。「地域のこれからを考えたい」「地域を元気にしていきたい」「子どもたちの未来を考えたい」「子どもたちとつながりたい」・・・そんな思いをお持ちの皆様、ぜひご一緒にこれからの東部中学区の地域と子どもたちのことを考えていきませんか。ご案内は、上記の皆様に差し上げていますが、お知り合いの方・ご近所にご協力頂けそうな方をお誘い頂いて、ご一緒に参加して頂いて構いません。ぜひ多くの皆様にお集まり頂ければ幸いです。

記

1　期　日　令和3年12月2日（木）14：00～15：30
2　場　所　酒田市立東部中学校　2階　図書室
3　講　師　庄内教育事務所社会教育課　社会教育主事　那須陽生　氏
4　参加費　無　料
5　申し込み　Googleフォームにてお申込みください。
こちらのQRコードを読み込んでアクセスしてください →
6　お問合せ先　酒田市立東部中学校　教頭　小倉秋泉
電話　52-2042　mail：tobu@sakata.ed.jp

「地域を創る」というテーマで研究を進めるにあたって、地域とのつながり作りは欠かせません。

本校ではこれまで、地域と関わって行う活動をいくつか行ってきていましたが、その活動の意義等について、地域全体と共有していた訳ではありませんでしたし、活動の系統性も薄かったというのが現状でした。

また、令和４年度から小中一貫教育が本格的に実施されますが、コミュニティ・スクールへの移行は不透明な状態でもありました。小中一貫とコミュニティ・スクールは一体的に進める必要があると感じていますし、たとえ、そういう制度を採用しないとしても、地域と連携・協働して学校運営していくことは、今後の持続可能な学校づくりには不可欠だと考えています。

そこで、「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」といったテーマで社会教育主事の話を聞く機会を設けることにしました。講話の後には、どのような地域、どのような子供たちに育てたいかというビジョンを共有し、そのための取り組みを考えるワークショップを行い、地域との連携・協働を作る第一歩としました。

↓　ワークショップで出された意見

【ビジョン①：こんな地域であってほしい】

・子供が多い
・子育てしやすい
・子供の姿が見える
・若い人たちが残る（いる）
・子供たちが帰ってきたいと思う
・お母さん達が元気
・高齢者が活動的
・活力がある
・東部地区ならではの特色がある
・住みたくなる
・農業に携わる人が多い
・孤立（引きこもり）がない
・人が増える（他からも人が来る）
・イベントが多い
・国際色豊か
・楽しい（ワクワクする）
・楽しい（ワクワクする）
・仲間がたくさんいる
・助け合える
・幸福感がある
・自然が残る
・安住の地と思える

【ビジョン②：こんな子どもに育ってほしい】

・思いやりがある
・包容力がある
・相手の立場で考えられる
・協力できる
・助け合える
・ジジババを好きになる
・地域を好きになる
（地域への好奇心・意欲）
・何事も楽しむ、興味をもつ力
・別の考えで発想する
・楽天性
・変化に対応する力
・柔軟性がある
・柔らかな考え方
・自己選択できる
・自分で考えられる
・人任せにしない
・自ら行動できる
・突破力
・チャレンジ精神
・生きる力

・健康
・体力
・語学力
・コミュニケーション力
・表現力
・財力
・一次産業ができる
・間違いを恐れない

参加して頂いた皆さんには、これからの東部地域のあり方、東部の子ども達への願いを熱心に協議して頂き、今後、いろいろな活動を仕組んでいきたいという声も聞かれました。

「ビッグハート・プロジェクト」
２月 11 日（木；祝）

「東部中学区の地域と子どもの未来を考える会」に参加して頂いた学校評議員さんが実行委員長となり、地域を元気にするイベント「ビッグハート・プロジェクト第一弾」を 12 月に開催しました。このイベントは、ハートをかたどったイルミネーションを作り、平田支所前の広場に展示。『映えスポット』として、多くの方が写真撮影で訪れていました。

その第二弾となるイベントに、中学生も参加できる形で企画したいということで、①スノーランタン作り　②かくし芸披露という２つの募集を行いました。

結局、募集後のコロナ感染の急拡大に伴い、イベント自体は中止となってしまいましたが、今後は、こうしたイベントの企画そのものから中学生を参加させて、地域を盛り上げるイベントを協働で創り上げていこうということを確認しています。

【研究の成果（まとめ）】

地域を大テーマにして、学年ごとに特色のある総合的な学習の時間の取り組みを進めることができました。各学年に総合のプロジェクトチームメンバーを置いたことで、その職員が中心となって活動を進めることができたからだと思います。

また、「東部中学区の地域と子どもの未来を考える会」の開催にこぎつけることができたことで、地域と連携・協働した活動「ビッグハート・プロジェクト」の実施につなげる道が拓けました。

全国学力学習状況調査の質問紙で、「地域の行事に参加しているか」「地域をよくするために自分にできることは何か考えることがある」といった地域との関わりについて尋ねる質問では、全国比を大きく上回る数値となっていまいした。自分の住む地域に愛着をもち、地域のためにできることをしていこうという思いを多くの生徒が感じられるようになっています。

【今後の課題】

本校の学校教育目標「自律・貢献・志」を具現化するための総合的な学習の時間の取り組みとなるよう、そのねらいを明確にしたうえで、３年間のスパン、ひいては小学校とのつながりを持たせた９年間のスパンでの取り組みとなるようにしていく必要があると考えています。

さらに、「地域を創る」という大テーマを活かすためには、地域とのつながりもより強めていく必要があります。

これまでの本校の総合での取り組みは、「地域に要請されたから」、「以前から行っていた活動だから」といった理由で行っているものが多かったり、活動と活動の繋がりが見えなかったりと、その目的が曖昧なものが多くありました。

そこで、今年度は「総合プロジェクトチーム」を組織し、総合的な学習の時間のそもそもの目的、本校の総合的な学習の時間で子ども達につけたい資質・能力は何か、そのためにはどんな活動をどのように仕組んでいくか等を繰り返し対話（協議）する時間を取りました。

職員がチームを組んで、対話（協議）を続けることで、少しずつ目的をもったつながりのある活動になりつつあるので、これを継続させていきたいと考えています。

さらに、地域との連携・協働を具現化するために、地域コーディネーターのような方を位置づけ、活動をつなげていく必要を感じています。コロナで中止となった「ビッグハート・プロジェクト」を実行に移すことができるかどうかが、今後の活動の大きな鍵になってくると思います。

総合的な学習の時間の活動に、地域との連携・協働を組み合わせるシステム作りをしていくことが大きな課題となります。

【おわりに】

この研究を通して、改めて総合的な学習の時間の本来の目的、本校の総合でつけたい資質・能力等を総合プロジェクトチームとして確認することができました。さらに、本地区に眠っているたくさんの資源にも目を向けることもできましたし、地域との連携・協働の方向性も見えてきました。

地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくりという言葉に代表されるような、学校も地域もみんながWin-Winとなる、地域とつながった本校独自の総合的な学習の時間を創り出せるようにしていきたいと思っています。

（校長　赤塚枝美）